

2022年12月7日

各 位

「SDGs 応援リース」の契約及び寄付について

株式会社山形銀行（頭取 長谷川 吉茂）の 100%子会社山銀リース株式会社（社長 柿崎 正樹）は、一般財団法人山形県理化学分析センター（理事長 大泉 茂）の SDGs の促進に資する設備導入において、「SDGs 応援リース」を下記のとおり契約いたしました。

また、2022年12月14日、当社が受け取るリース料の一部を「美しい山形・最上川フォーラム」に寄付することとなりましたのでお知らせします。

「SDGs 応援リース」はお客さま及び地域の SDGs を促進することを目的として 2021 年度より取り扱いを行っています。商品の特徴として、お客さま及び当社で選定した SDGs の促進に向けた取組みを行っている団体宛てに、原則としてリース契約額の 0.2%相当額を寄付いたします。

当社はこうした取組みを通じて、お客さま及び地域社会の SDGs への取組みを全力で支援してまいります。

記

契約法人名	一般財団法人山形県理化学分析センター
代表者	大泉 茂
所在地	山形県山形市松栄一丁目 6 番 68 号
事業内容	飲料水水質分析、事業場排水分析、河川等公共用水分析 産業廃棄物・土壌・肥料・飼料・農薬の分析 浄化槽法定検査、簡易専用水道検査 医薬品試験、食品・輸入食品の分析 環境調査、作業環境測定、その他特殊分析
SDGs 促進に資する設備	誘導結合プラズマ質量分析装置 マイクロウェーブ前処理装置 高速液体クロマトグラフ ガスクロマトグラフ質量分析装置（GC-MS/MS） 水素発生装置、受電設備
契約概要	契約日 2022 年 7 月 11 日 物件価額 50.28 百万円 リース期間 6 年(一部 10 年)
企業の特徴・SDGs 促進に向けた取組み等	詳細は別紙 1 参照

<p>寄付</p>	<p>寄付先 美しい山形・最上川フォーラム 寄付品 現金 200 千円 詳細は別紙 2 参照</p>
<p>対応する SDGs</p>	<p><物件による SDGs 促進></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"></div> </div> <p><寄付による SDGs 促進></p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center; width: 25%;"></div> <div style="text-align: center; width: 25%;"></div> <div style="text-align: center; width: 25%;"></div> <div style="text-align: center; width: 25%;"></div> <div style="text-align: center; width: 25%;"></div> <div style="text-align: center; width: 25%;"></div> </div>

以上

本件に関するお問い合わせ先
 山銀リース株式会社 本社営業部
 山川（政）・加藤
 TEL 023-632-4983

1.法人概要

- (1) 法人名 : 一般財団法人山形県理化学分析センター
- (2) 理事長 : 大泉 茂 (オオイズミ シゲル)
- (3) 所在地 : 〒990-2473
山形県山形市松栄一丁目 6 番 68 号
TEL.023-645-5308 FAX.023-645-5305
- (4) 基本財産 : 152.96 百万
- (5) 設立 : 1972 年 3 月 28 日(一般財団法人登記 2010 年 6 月 18 日)
- (6) 従業員 : 55 名 (内派遣 3 名)
- (7) 主要事業 : 環境・衛生の検査、分析及び調査業務

2.「SDGs 応援リース」契約内容

(1)導入設備

- ①誘導結合プラズマ質量分析装置
- ②マイクロウェーブ前処理装置
- ③高速液体クロマトグラフ分析装置
- ④ガスクロマトグラフ質量分析装置 (GC-MS/MS)
- ⑤水素発生装置
- ⑥受電設備

(2) 物件価額 : 50.28 百万円

(3) 契約期間 : 6 年(一部 10 年)

(4) 寄付先 : 美しい山形・最上川フォーラム

(住所 山形県山形市緑町一丁目 9-30 緑町会館)

寄付金贈呈式 2022 年 12 月 14 日(水) 午後 1 時 30 分より

寄付金 現金 200 千円

(山銀リース株式会社、一般財団法人山形県理化学分析センターの連名にて)

(5) 設備投資による SDGs 促進

- No.3 「すべての人に健康と福祉を」
- No.6 「安全な水とトイレを世界中に」
- No.9 「産業と技術革新の基盤をつくろう」
- No.12 「つくる責任 つかう責任」

(6) 寄付による SDGs 促進

- No.1 「貧困をなくそう」
- No.4 「質の高い教育をみんなに」
- No.6 「安全な水とトイレを世界中に」
- No.12 「つくる責任 つかう責任」

No.14 「海の豊かさを守ろう」

No.15 「陸の豊かさも守ろう」

3.当法人の SDGs への取り組み経緯・取り組み内容

(1)当法人は 1972 年に設立され、環境調査、分析、各種検査等を主たる事業としている一般財団法人です。

環境経営の活動方針には、

- ①環境関連法規を順守します
- ②資源の使用状況を監視し、最少となるように工夫します
- ③業務の効率化を図り、時間の削減を行います
- ④環境負荷の少ない資材や機器の調達を行います
- ⑤多くの人々に環境教育などを通じて環境についての理解を求めるとともに、積極的に環境改善活動などに参加します
- ⑥役職員全員で環境経営マネジメントシステムの理解を深め、これに取り組みます

以上 6 項目を掲げ、SDGs 促進を意識した様々な活動に全社を挙げて取り組んでいます。

(2)各種分析機器および前処理機器の導入は、当社における業務効率の改善と労働生産性の向上につながり、SDGs 達成目標のひとつである「産業と技術革新の基盤をつくろう」の実現に寄与します。

(3)誘導結合プラズマ質量分析装置の導入は、日本薬局方が改正され新たに制定された「元素不純物試験法」に対応するためのものです。本機器は金属類の微量分析に優れ、医薬品の安全性向上により一層貢献するものであり、達成目標である「すべての人に健康と福祉を」の実現に寄与します。

(4)ガスクロマトグラフ質量分析装置は、微量 PCB 分析のため新規導入しました。PCB は様々な用途に利用されてきましたが、人の健康や生活環境に係る被害が生じるおそれがある物質として、現在は使用および製造が禁止されています。本機器は PCB のみならず農薬や揮発性有機化合物等の分析にも活用でき、食品や飲料水中の有害物質の検出が可能です。これにより「すべての人に健康と福祉を」および「安全な水とトイレを世界中に」の実現に寄与します。

(5)水素発生装置は、ガスクロマトグラフ質量分析装置による分析に必要なヘリウムの代用品として、水素を作る装置です。ヘリウムは人工的に製造が困難で有限な天然ガスですが、半導体製造や医療分野では不可欠な貴重な資源となっています。世界的に深刻なヘリウム不足に対応すべく本件装置を導入しました。

また、受電設備の入替は、高効率トランスへの入替により受電効率向上を目的としていますが、24 時間温度管理が必要な試験室での夜間空調を電気エアコンに切り替えることにより、二酸化炭素排出量の削減が期待されます。

以上のことは、「つくる責任、つかう責任」の実現に寄与します。

4.美しい山形・最上川フォーラムにおける SDGs への取り組み内容

美しい山形・最上川フォーラムは2001年に、産学官公民連携組織として設立されました。主な活動の柱および目標に、

- ①美しく豊かで健全な水環境を守り育てる
- ②川に育まれた地域文化を理解し活かす
- ③最上川を地域経済の活性化に活用する

以上の3点を掲げSDGsに貢献するさまざまな活動をおこなっています。

(1) 身近な川や水辺の健康診断

最上川をはじめとした県内河川の清流化に向け、身近な川や水辺の現状を、水質簡易調査キット等を使い市民自らの手で調査しています。

子供から高齢者まで幅広い層が調査に参加することを通じ、県民全体の河川環境に関する問題意識や関心を高め、水質浄化に向けた実践活動を拡大することも狙っています。

調査結果をもとに、行政、市民、団体、企業の連携により、水質改善に向けた取り組みを展開しています。

(2) 美しい山形クリーンアップキャンペーン

最上川をはじめとした県内河川の環境の改善に向け、活動の核となる人材を育てつつ、誰もが気軽に参加できる形で河川の散乱ゴミの回収活動を実践しています。

子供から高齢者まで幅広い層が調査に参加することを通じ、県民一人ひとりの意識改革を促し、ゴミを捨てない行動の実践やゴミを出さない工夫など本格的な実践活動につなげています。

(3) ゴミ拾いはスポーツだ！スポ GOMI 大会

海岸漂着物の現状を広く啓発するため、従来のゴミ拾いに「スポーツ」のエッセンスを加え、今までの奉仕活動を「競技」へと変換させた日本発祥全く新しいスポーツです。

子供から高齢者まで、企業や知人同士など様々なグループで気軽に楽しみながら参加することによって、ゴミの現状を知り、ゴミを捨てない、出さないという意識を県民一人ひとりが持つことを目指し大会を運営しています。

(4) 海岸漂着物回収体験プログラム

海岸漂着物回収体験プログラムは、マイクロプラスチックやレジンペレット等、環境に影響を与えている、小さなゴミの回収の大変さを目で見て触れて体験していただくためのオリジナルプログラムです。

環境に関するクイズや紙芝居等を組み合わせ、スポ GOMI 大会や、環境に関するイベント等の会場で実践しています。

(5) 美しい山形・最上川フォーラムの活動は SDGs の

- No.1 「貧困をなくそう」
- No.4 「質の高い教育をみんなに」

No.6 「安全な水とトイレを世界中に」

No.12 「つくる責任 つかう責任」

No.14 「海の豊かさを守ろう」

No.15 「陸の豊かさも守ろう」

という目標に直接関わってくるものであると考え、当法人はその活動を支持しています。

以上

